

石像

毎夕

その日の彫刻を終えるたび

彼女は池から涙を両掌ですくい

かれの偶像を削りだした石の粉を 洗い流した

痩せたほほの両側を流れ落ちる

すこしきめの荒い髪

ひいでた額

静かな眼

そしておだやかに閉じた薄い唇

彼女が偶像を洗うたび

その幻影が色濃くなっていく

完成したら

彼女は石像を池に沈めるだろう

深く

ふかく

周りに積んだ小石は

彼の心の池に投げようとして

でもついに口から出ることのなかった

彼女のことばや唄の数々

ささやけ

響け

かれの石像に